

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	ITキャリアデザイン I	
実務家教員授業		
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	必修	
授業方法	演習	
授業時間	30時間（1単位）	
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）	
授業概要	就職活動に関する基礎知識について学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と演習	
達成目標	就職活動に関する基礎知識を習得する	
教科書	オリジナルテキスト	
実務家教員の紹介		
授業計画	1 就職ガイダンス	31
	2 自己分析 I	32
	3 自己分析 II	33
	4 自己分析 III	34
	5 就活マナー	35
	6 筆記試験対策	36
	7 WEB選考対策	37
	8 インターンシップの基礎知識	38
	9 業界研究 I	39
	10 業界研究 II	40
	11 仕事研究 I	41
	12 仕事研究 II	42
	13 自己PR作成	43
	14 SPI対策	44
	15 CAB対策	45
	16	46
	17	47
	18	48
	19	49
	20	50
	21	51
	22	52
	23	53
	24	54
	25	55
	26	56
	27	57
	28	58
	29	59
	30	60
成績評価方法 (試験実施方法)	提出物評価100% 授業内で取り組む提出課題で評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	ITキャリアデザインII	
実務家教員授業		
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	必修	
授業方法	演習	
授業時間	60時間（2単位）	
授業コマ数	30コマ（1コマ90分）	
授業概要	就職活動に関する適性試験や面接試験対策について学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と演習	
達成目標	適性試験や面接試験に関する知識を習得する	
教科書	オリジナルテキスト	
実務家教員の紹介		
授業計画	1 履歴書作成	31
	2 履歴書作成	32
	3 履歴書作成	33
	4 業界研究、職種研究	34
	5 業界研究、職種研究	35
	6 業界研究、職種研究	36
	7 志望動機作成	37
	8 志望動機作成	38
	9 入退室方法の確認	39
	10 面接トレーニング	40
	11 面接トレーニング	41
	12 面接トレーニング	42
	13 面接試験における質問研究	43
	14 面接試験における質問研究	44
	15 エントリーシート作成	45
	16 面接トレーニング	46
	17 面接トレーニング	47
	18 面接トレーニング	48
	19 電子メールでの連絡方法	49
	20 電子メールでの連絡演習	50
	21 電話でのアポイントメント	51
	22 電話でのアポイントメント演習	52
	23 就職活動における自己管理	53
	24 就職活動システムの利用方法	54
	25 SPI対策、CAB対策	55
	26 SPI対策、CAB対策	56
	27 SPI対策、CAB対策	57
	28 面接トレーニング	58
	29 面接トレーニング	59
	30 効果測定	60
成績評価方法 (試験実施方法)	提出物評価100% 授業内で取り組む提出課題で評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	一般教養 I	
実務家教員授業		
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	必修	
授業方法	演習	
授業時間	30時間（1コマ）	
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）	
授業概要	ビジネス実務界全般において常用される漢字、語句及び熟語等に関する知識について学ぶ	
授業の進め方	問題演習による試験対策	
達成目標	漢字検定の合格を目指す	
教科書	検定協会発刊の対策問題集	
実務家教員の紹介		
授業計画	1 漢字 基礎演習	31
	2 漢字 基礎演習	32
	3 漢字 基礎演習	33
	4 漢字 基礎演習	34
	5 漢字 基礎演習	35
	6 漢字 項目別問題演習	36
	7 漢字 項目別問題演習	37
	8 漢字 項目別問題演習	38
	9 漢字 項目別問題演習	39
	10 漢字 項目別問題演習	40
	11 漢字 試験直前問題演習	41
	12 漢字 試験直前問題演習	42
	13 漢字 試験直前問題演習	43
	14 漢字 試験直前問題演習	44
	15 漢字 試験直前問題演習	45
	16	46
	17	47
	18	48
	19	49
	20	50
	21	51
	22	52
	23	53
	24	54
	25	55
	26	56
	27	57
	28	58
	29	59
	30	60
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 授業内でのチェックテストで評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	IT基礎知識 I	
実務家教員授業		
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	必修	
授業方法	講義	
授業時間	90時間（3単位）	
授業コマ数	45コマ（1コマ90分）	
授業概要	IT基礎知識（テクノロジ分野・マネジメント分野・ストラテジ分野）について学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と演習	
達成目標	IT基礎全般において基本的な理解を深める	
教科書	オリジナルテキスト	
実務家教員の紹介		
授業計画	1 ハードウェア I	31 セキュリティ、システム構成要素
	2 基礎理論	32 システム構成要素
	3 問題演習・解説	33 問題演習・解説
	4 基礎理論	34 システム構成要素
	5 基礎理論	35 マルチメディア
	6 問題演習・解説	36 問題演習・解説
	7 ハードウェア II	37 システム開発
	8 ハードウェア II	38 システム開発
	9 問題演習・解説	39 問題演習・解説
	10 ハードウェア II	40 マネジメント
	11 ソフトウェア	41 マネジメント
	12 問題演習・解説	42 問題演習・解説
	13 ソフトウェア	43 ストラテジ
	14 ソフトウェア	44 ストラテジ
	15 問題演習・解説	45 問題演習・解説
	16 ソフトウェア、アルゴリズム	46
	17 アルゴリズム	47
	18 問題演習・解説	48
	19 アルゴリズム	49
	20 データベース	50
	21 問題演習・解説	51
	22 データベース	52
	23 データベース	53
	24 問題演習・解説	54
	25 ネットワーク	55
	26 ネットワーク	56
	27 問題演習・解説	57
	28 セキュリティ	58
	29 セキュリティ	59
	30 問題演習・解説	60
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 授業内でのチェックテストで評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容			
授業科目	IT基礎知識 II			
実務家教員授業				
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース			
履修年次	1年次			
開講学期	前期			
科目区分	必修			
授業方法	演習			
授業時間	90時間（3単位）			
授業コマ数	45コマ（1コマ90分）			
授業概要	IT基礎知識（テクノロジ分野・マネジメント分野・ストラテジ分野）について学ぶ			
授業の進め方	問題演習による試験対策			
達成目標	IT基礎全般において基本的な理解を深め、基本情報技術者試験の午前試験問題に正答できる			
教科書	オリジナルテキスト			
実務家教員の紹介				
授業計画	1	項目別問題演習 テクノロジ I	31	総合問題演習 V
	2	項目別問題演習 テクノロジ I	32	総合問題演習 V
	3	項目別問題演習【解説】	33	総合問題演習【解説】
	4	項目別問題演習 テクノロジ II	34	総合問題演習 VI
	5	項目別問題演習 テクノロジ II	35	総合問題演習 VI
	6	項目別問題演習【解説】	36	総合問題演習【解説】
	7	項目別問題演習 テクノロジ III	37	試験直前問題演習 I
	8	項目別問題演習 テクノロジ III	38	試験直前問題演習 I
	9	項目別問題演習【解説】	39	試験直前問題演習【解説】
	10	項目別問題演習 テクノロジ IV	40	試験直前問題演習 II
	11	項目別問題演習 テクノロジ IV	41	試験直前問題演習 II
	12	項目別問題演習【解説】	42	試験直前問題演習【解説】
	13	項目別問題演習 マネジメント	43	試験直前問題演習 III
	14	項目別問題演習 マネジメント	44	試験直前問題演習 III
	15	項目別問題演習【解説】	45	試験直前問題演習【解説】
	16	項目別問題演習 ストラテジ	46	
	17	項目別問題演習 ストラテジ	47	
	18	項目別問題演習【解説】	48	
	19	総合問題演習 I	49	
	20	総合問題演習 I	50	
	21	総合問題演習【解説】	51	
	22	総合問題演習 II	52	
	23	総合問題演習 II	53	
	24	総合問題演習【解説】	54	
	25	総合問題演習 III	55	
	26	総合問題演習 III	56	
	27	総合問題演習【解説】	57	
	28	総合問題演習 IV	58	
	29	総合問題演習 IV	59	
	30	総合問題演習【解説】	60	
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 授業内でのチェックテストで評価			
備考	<p>成績評価基準</p> <p>学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。</p>			

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	コンピュータリテラシー	
実務家教員授業		
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	必修	
授業方法	実習	
授業時間	30時間（1単位）	
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）	
授業概要	Officeソフト（Word・Excel・PowerPoint）の操作方法について学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と実習	
達成目標	Word、Excel、PowerPointの基本的な操作方法を習得する	
教科書	情報利活用 基本演習	
実務家教員の紹介		
授業計画	1 コンピューターの基本操作	31
	2 一般的なビジネス文書の作成	32
	3 シンプルなレポートや報告書の作成	33
	4 表・画像・図形を使った文書の作成	34
	5 効果測定	35
	6 プрезентーションの企画	36
	7 わかりやすいストーリー構成	37
	8 センスアップするレイアウトデザイン	38
	9 イメージを伝えるイラスト・写真活用	39
	10 効果測定	40
	11 表作成の基本操作	41
	12 見やすく使いやすい表にする編集操作	42
	13 数式・関数を活用した集計表の作成	43
	14 グラフの基本	44
	15 効果測定	45
	16	46
	17	47
	18	48
	19	49
	20	50
	21	51
	22	52
	23	53
	24	54
	25	55
	26	56
	27	57
	28	58
	29	59
	30	60
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 効果測定(実習課題)の得点で評価	
備考	成績評価基準	
	学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	Webシステム開発 I	
実務家教員授業		
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	必修	
授業方法	実習	
授業時間	60時間（2単位）	
授業コマ数	30コマ（1コマ90分）	
授業概要	HTML&CSS、JavaScriptの基本構文について学ぶ	
授業の進め方	有識者の指導による講義と実習	
達成目標	JavaScriptとCSSを利用したWebページ作成ができる	
教科書	これからWebをはじめる人のHTML&CSS、JavaScriptのきほんのきほん	
実務家教員の紹介	システムエンジニアとしての設計・開発・プログラミングの経験を活かし、本科目に対し実践的な指導・教育をおこなう。	
授業計画	1 開発環境の構築	31
	2 簡単なHTMLファイルの作成	32
	3 HTMLタグの種類と使い方	33
	4 CSSの使い方	34
	5 スタイル調整	35
	6 領域の分け方	36
	7 画像の取扱い方法	37
	8 リンクの設定	38
	9 スマートフォンデバイスへの対応方法	39
	10 親要素の指定を引き継ぐ	40
	11 CSSアニメーションの使い方	41
	12 CSSフレームワークの使用方法	42
	13 グリッドシステムとは	43
	14 フォームの作成	44
	15 送信ボタンの設置	45
	16 JavaScriptとは	46
	17 変数について	47
	18 日付の取扱い方	48
	19 要素を取得し編集する	49
	20 if構文	50
	21 イベント処理	51
	22 繰り返し処理	52
	23 Ajax通信とは	53
	24 JSONデータの使用方法	54
	25 配列	55
	26 for構文	56
	27 非同期通信とは	57
	28 jQueryとは	58
	29 Vue.jsとjQueryを組み合わせる	59
	30 効果測定	60
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 効果測定(実習課題)の得点で評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	Webシステム開発 II	
実務家教員授業	○	
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	必修	
授業方法	実習	
授業時間	90時間（3単位）	
授業コマ数	45コマ（1コマ90分）	
授業概要	PHPの基本構文及びデータベース接続について学ぶ	
授業の進め方	有識者の指導による講義と実習	
達成目標	PHPとデータベースを利用したWebアプリケーション開発ができる	
教科書	確かな力が身につくPHP「超」入門	
実務家教員の紹介	システムエンジニアとしての設計・開発・プログラミングの経験を活かし、本科目に対し実践的な指導・教育をおこなう。	
授業計画	1 PHPとは	31 フォームの情報をテーブルに追加
	2 PHPスクリプトの動かし方	32 SQLスクリプトでデータベースを作成
	3 PHPと他の言語の違い	33 ログイン、ログアウト処理
	4 PHPツールの準備	34 入力情報の登録、更新
	5 開発環境の準備	35 ショッピングカート機能の作成
	6 PHPスクリプトの実行方法	36 セッションとは
	7 ブラウザにメッセージを表示する方法	37 お気に入り機能の作成
	8 文字化けについて	38 VirtualBoxで仮想環境を構築
	9 リクエストパラメータ	39 資産管理システムとは
	10 演算子と変数	40 bootstrapの使用方法
	11 if文	41 MySQLのインストール
	12 switch文	42 エラーメッセージの表示
	13 for文、while文	43 WordPressにおけるPHPの活用
	14 foreach文と配列	44 Web APIの使用
	15 foreach文と配列のキー	45 効果測定
	16 foreach文とチェックボックス	46
	17 日時の取得	47
	18 画像のランダム表示	48
	19 入力データの形式チェック	49
	20 パスワードのチェック	50
	21 全角から半角への変換	51
	22 サーバへの保存	52
	23 ファイルのアップロード	53
	24 データベースとは	54
	25 データベースの作成	55
	26 データの取得	56
	27 データの検索	57
	28 データの追加	58
	29 データの削除	59
	30 データの更新	60
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 効果測定(実習課題)の得点で評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	Python	
実務家教員授業		
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	必修	
授業方法	実習	
授業時間	90時間（3単位）	
授業コマ数	45コマ（1コマ90分）	
授業概要	Pythonの基本構文とプログラムの実装について学ぶ	
授業の進め方	有識者の指導による講義と実習	
達成目標	Pythonを利用したCUIベースのプログラム実装ができる	
教科書	新・明解 Python入門	
実務家教員の紹介	Sler企業にてプログラマー、システムエンジニアとしての実務経験から、開発業務で活かせる実践的な教育をおこなう。	
授業計画	1 Pythonの特徴	31 クラス
	2 画面への表示とキーボード入力	32 クラス
	3 制御・条件分岐	33 クラス変数とクラスメソッド
	4 制御・条件分岐	34 継承
	5 制御・条件分岐	35 継承
	6 プログラムの構成要素	36 例外処理
	7 制御・繰り返し	37 例外処理
	8 制御・繰り返し	38 ファイル処理の基礎
	9 制御・繰り返し	39 ファイル処理の基礎
	10 オブジェクトと型	40 バイナリファイル
	11 オブジェクトと型	41 総合実習
	12 文字列の基礎	42 総合実習
	13 文字列の操作	43 総合実習
	14 文字列の書式化	44 総合実習
	15 効果測定	45 効果測定
	16 リスト	46
	17 リスト	47
	18 リスト	48
	19 リスト	49
	20 タプル	50
	21 辞書	51
	22 集合	52
	23 関数の基礎	53
	24 関数の基礎	54
	25 文書化文字列とアノテーション	55
	26 名前空間とスコープ	56
	27 高階関数とラムダ式	57
	28 モジュール	58
	29 パッケージ	59
	30 効果測定	60
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 効果測定(実習課題)の得点で評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	サーバサイドフレームワーク	
実務家教員授業		
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	必修	
授業方法	実習	
授業時間	90時間（3単位）	
授業コマ数	45コマ（1コマ90分）	
授業概要	Djangoを使用したサーバサイドアプリケーションの仕組みについて学ぶ	
授業の進め方	有識者の指導による講義と実習	
達成目標	Djangoを使用したWebアプリケーション開発ができる	
教科書	動かして学ぶ！Python Django開発入門	
実務家教員の紹介	Sler企業にてプログラマー、システムエンジニアとしての実務経験から、開発業務で活かせる実践的な教育をおこなう。	
授業計画	1 Webアプリとは	31 モデルの作成
	2 Djangoの概要、全体像	32 モデルの作成
	3 Djangoプロジェクトの構造	33 Djangoアプリケーションにページを追加
	4 ルーティング、ビューの概要	34 Djangoアプリケーションにページを追加
	5 フォーム、モデル、テンプレートの概要	35 Djangoアプリケーションにページを追加
	6 Webアプリ開発環境の構築	36 Djangoアプリケーションにページを追加
	7 Webアプリ開発環境の構築	37 Djangoアプリケーションとデータベースの連携
	8 単一ページのDjangoアプリケーションを作成	38 Djangoアプリケーションとデータベースの連携
	9 単一ページのDjangoアプリケーションを作成	39 Djangoアプリケーションとデータベースの連携
	10 単一ページのDjangoアプリケーションを作成	40 Djangoアプリケーションとデータベースの連携
	11 単一ページのDjangoアプリケーションを作成	41 Djangoアプリケーションとデータベースの連携
	12 バージョン管理システムの構築	42 Djangoアプリケーションとデータベースの連携
	13 Bootstrapの適用	43 エラーページの作成
	14 ベーステンプレートの作成	44 バックアップ処理の作成
	15 フォーム画面の作成	45 効果測定
	16 フォーム画面の作成	46
	17 フォーム画面の作成	47
	18 メール送信機能の作成	48
	19 メール送信機能の作成	49
	20 課題演習	50
	21 課題演習	51
	22 課題演習	52
	23 課題演習	53
	24 課題演習	54
	25 認証用アプリケーションの作成	55
	26 ユーザモデルの定義	56
	27 Django認証機能の作成	57
	28 Django認証機能の作成	58
	29 Django認証機能のテンプレートの改変	59
	30 Django認証機能のテンプレートの改変	60
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 効果測定(実習課題)の得点で評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	Java
実務家教員授業	○
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	実習
授業時間	90時間（3単位）
授業コマ数	45コマ（1コマ90分）
授業概要	Javaの基本構文とオブジェクト指向プログラミングについて学ぶ
授業の進め方	有識者の指導による講義と実習
達成目標	Javaを利用したオブジェクト指向のプログラミング開発ができる
教科書	新・明解 Java入門 第2版
実務家教員の紹介	ITエンジニアとして、上流から下流まで幅広い作業工程の実務経験がある。その経験から、現場で即戦力となる為の職業実践的な教育をおこなう。
授業計画	1 Javaの特徴・学習のための準備
	2 変数
	3 制御構文・分岐、if文
	4 制御構文・分岐、switch文 キーワード・識別子・演算子
	5 制御構文・繰り返し do-while文・while文
	6 制御構文・繰り返し for文
	7 基本型と演算
	8 配列
	9 配列
	10 コレクション
	11 制御構文・配列の実習
	12 効果測定
	13 メソッド
	14 メソッド
	15 クラスの基本
	16 クラスの基本
	17 日付クラスの作成
	18 日付クラスの作成
	19 クラス変数とクラスメソッド
	20 クラス変数とクラスメソッド
	21 パッケージ
	22 クラスの派生と多相性
	23 クラスの派生と多相性
	24 クラスの派生と多相性
	25 抽象クラス
	26 抽象クラス
	27 インタフェース
	28 インタフェース
	29 クラス・抽象クラス・インターフェースの実習
	30 効果測定
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 効果測定(実習課題)の得点で評価
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	クラウド技術 I	
実務家教員授業		
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	必修	
授業方法	実習	
授業時間	60時間（2単位）	
授業コマ数	30コマ（1コマ90分）	
授業概要	クラウドの概要とAWSを利用したクラウドコンピューティングの実装方法について学ぶ	
授業の進め方	有識者の指導による講義と実習	
達成目標	クラウド環境で高可用性を実現するWeb開発環境の実装ができる	
教科書	AWS Academyテキスト	
実務家教員の紹介	ITエンジニアとして、上流から下流まで幅広い作業工程の実務経験がある。その経験から、現場で即戦力となる為の職業実践的な教育をおこなう。	
授業計画	1 クラウドのコンセプト	31
	2 料金の基本	32
	3 AWS グローバルインフラストラクチャ	33
	4 AWS のサービスとサービスカテゴリ	34
	5 AWS の責任共有モデル	35
	6 クラウドのセキュリティ - AWS IAM	36
	7 ネットワークの基本,Amazon VPC	37
	8 VPC ネットワーク	38
	9 VPC セキュリティ	39
	10 VPC設定実習	40
	11 Route 53、CloudFront	41
	12 コンピューティングサービスの概要	42
	13 Amazon EC2	43
	14 Amazon EC2実習	44
	15 Amazon EC2実習	45
	16 Amazon EC2 のコスト最適化	46
	17 コンテナサービス、AWS Lambda	47
	18 AWS EBS	48
	19 AWS S3	49
	20 AWS EFS、AWS S3 Glacier	50
	21 Amazon RDS	51
	22 Amazon DynamoDB,Amazon Redshift	52
	23 クラウドアーキテクチャの設計	53
	24 Elastic Load Balancing	54
	25 Amazon EC2 Auto Scaling	55
	26 Amazon EC2 Auto Scaling実習	56
	27 総合実習	57
	28 総合実習	58
	29 総合実習	59
	30 効果測定	60
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 効果測定(実習課題)の得点で評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	Linux	
実務家教員授業		
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	必修	
授業方法	実習	
授業時間	30時間（1単位）	
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）	
授業概要	LinuxOSの概要と基本操作について学ぶ	
授業の進め方	有識者の指導による講義と実習	
達成目標	LinuxOSの基本的な操作を習得する	
教科書	Linux標準教科書(Ver.3.0.3)	
実務家教員の紹介	アプリケーション開発者として各種プログラミング言語での開発経験が豊富である。エンジニアとしての経験を活かした実習指導をおこなう。	
授業計画	1 Linuxのインストール	31
	2 Linuxの概要	32
	3 基本的なコマンド	33
	4 基本的なコマンド	34
	5 正規表現とパイプ	35
	6 コマンド演習	36
	7 基本的なコマンド2	37
	8 基本的なコマンド2	38
	9 viエディタ	39
	10 エディタ演習	40
	11 管理者の仕事	41
	12 ユーザ権限とアクセス権	42
	13 アクセス権演習	43
	14 総合演習	44
	15 効果測定	45
	16	46
	17	47
	18	48
	19	49
	20	50
	21	51
	22	52
	23	53
	24	54
	25	55
	26	56
	27	57
	28	58
	29	59
	30	60
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 効果測定(実習課題)の得点で評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	AIプログラミング	
実務家教員授業		
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	必修	
授業方法	実習	
授業時間	90時間（3単位）	
授業コマ数	45コマ（1コマ90分）	
授業概要	機械学習フレームワークを利用した機械学習プログラムについて学ぶ	
授業の進め方	有識者の指導による講義と実習	
達成目標	前処理の実装、scikit-learnを使用した機械学習のモデル作成ができる	
教科書	スッキリわかるPythonによる機械学習入門	
実務家教員の紹介	ソフトウェア技術や先端技術（AI等）の基礎研究・開発業務に携わってきた経験を活かし、実践的なシステム開発の指導をおこなう。	
授業計画	1 機械学習概要	31 予測性能評価：適合率、再現率、f1-score、k分割交差検証
	2 基礎統計学	32 予測性能評価：適合率、再現率、f1-score、k分割交差検証
	3 機械学習によるデータ分析の流れ	33 予測性能評価：適合率、再現率、f1-score、k分割交差検証
	4 Pythonによる機械学習プログラミングの準備	34 教師なし学習：次元削減
	5 pandasの基本	35 教師なし学習：次元削減
	6 scikit-learnの基本	36 教師なし学習：次元削減
	7 教師あり学習：分類	37 実習(教師あり学習：分類、アダブースト)
	8 教師あり学習：分類	38 実習(教師あり学習：分類、アダブースト)
	9 教師あり学習：分類	39 実習(教師あり学習：分類、アダブースト)
	10 教師あり学習：回帰	40 実習(教師あり学習：分類、アダブースト)
	11 教師あり学習：回帰	41 実習(教師あり学習：回帰、k分割交差検証)
	12 教師あり学習：回帰	42 実習(教師あり学習：回帰、k分割交差検証)
	13 分類におけるチューニング	43 実習(教師あり学習：回帰、k分割交差検証)
	14 分類におけるチューニング	44 実習(教師あり学習：回帰、k分割交差検証)
	15 分類におけるチューニング	45 効果測定
	16 回帰におけるチューニング	46
	17 回帰におけるチューニング	47
	18 回帰におけるチューニング	48
	19 実習(教師あり学習：分類)	49
	20 実習(教師あり学習：回帰)	50
	21 効果測定	51
	22 教師あり学習の総合演習	52
	23 教師あり学習の総合演習	53
	24 教師あり学習の総合演習	54
	25 実践的前処理：データ結合、データ補完、外れ値除去	55
	26 実践的前処理：データ結合、データ補完、外れ値除去	56
	27 実践的前処理：データ結合、データ補完、外れ値除去	57
	28 ロジスティック回帰、ランダムフォレスト、アダブースト	58
	29 ロジスティック回帰、ランダムフォレスト、アダブースト	59
	30 ロジスティック回帰、ランダムフォレスト、アダブースト	60
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 効果測定(実習課題)の得点で評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容																																																																																										
授業科目	クラウドコンピューティングA																																																																																										
実務家教員授業																																																																																											
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース																																																																																										
履修年次	1年次																																																																																										
開講学期	後期																																																																																										
科目区分	選択1																																																																																										
授業方法	実習																																																																																										
授業時間	60時間（2単位）																																																																																										
授業コマ数	30コマ（1コマ90分）																																																																																										
授業概要	AWSのAIサービスを利用したプログラムの実装方法について学ぶ																																																																																										
授業の進め方	有識者の指導による講義と実習																																																																																										
達成目標	AWSの各種AIサービスを使用したプログラム開発ができる																																																																																										
教科書	AWSでつくるAIプログラミング入門																																																																																										
実務家教員の紹介	アプリケーション開発者として各種プログラミング言語での開発経験が豊富である。エンジニアとしての経験を活かした実習指導をおこなう。																																																																																										
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>環境構築</td><td>31</td></tr> <tr><td>2</td><td>Translate : テキスト翻訳</td><td>32</td></tr> <tr><td>3</td><td>Translate : テキスト翻訳</td><td>33</td></tr> <tr><td>4</td><td>Polly : 音声合成</td><td>34</td></tr> <tr><td>5</td><td>Polly : 音声合成</td><td>35</td></tr> <tr><td>6</td><td>翻訳、音声合成実習</td><td>36</td></tr> <tr><td>7</td><td>Transcribe : 音声をテキストに変換</td><td>37</td></tr> <tr><td>8</td><td>Transcribe : 音声をテキストに変換</td><td>38</td></tr> <tr><td>9</td><td>音声変換実習</td><td>39</td></tr> <tr><td>10</td><td>Rekognition : 画像の分析</td><td>40</td></tr> <tr><td>11</td><td>Rekognition : 画像の分析</td><td>41</td></tr> <tr><td>12</td><td>画像分析実習1</td><td>42</td></tr> <tr><td>13</td><td>Rekognition : 画像の分析</td><td>43</td></tr> <tr><td>14</td><td>Rekognition : 画像の分析</td><td>44</td></tr> <tr><td>15</td><td>画像分析実習2</td><td>45</td></tr> <tr><td>16</td><td>Textact : 画像からテキストを抽出</td><td>46</td></tr> <tr><td>17</td><td>Textact : 画像からテキストを抽出</td><td>47</td></tr> <tr><td>18</td><td>テキスト抽出実習</td><td>48</td></tr> <tr><td>19</td><td>Comprehend : 文章から話題や感情を抽出</td><td>49</td></tr> <tr><td>20</td><td>Comprehend : 文章から話題や感情を抽出</td><td>50</td></tr> <tr><td>21</td><td>Comprehend : 文章から話題や感情を抽出</td><td>51</td></tr> <tr><td>22</td><td>話題、感情抽出実習1</td><td>52</td></tr> <tr><td>23</td><td>話題、感情抽出実習2</td><td>53</td></tr> <tr><td>24</td><td>開発演習</td><td>54</td></tr> <tr><td>25</td><td>開発演習</td><td>55</td></tr> <tr><td>26</td><td>開発演習</td><td>56</td></tr> <tr><td>27</td><td>開発演習</td><td>57</td></tr> <tr><td>28</td><td>開発演習</td><td>58</td></tr> <tr><td>29</td><td>開発演習</td><td>59</td></tr> <tr><td>30</td><td>効果測定</td><td>60</td></tr> </table>	1	環境構築	31	2	Translate : テキスト翻訳	32	3	Translate : テキスト翻訳	33	4	Polly : 音声合成	34	5	Polly : 音声合成	35	6	翻訳、音声合成実習	36	7	Transcribe : 音声をテキストに変換	37	8	Transcribe : 音声をテキストに変換	38	9	音声変換実習	39	10	Rekognition : 画像の分析	40	11	Rekognition : 画像の分析	41	12	画像分析実習1	42	13	Rekognition : 画像の分析	43	14	Rekognition : 画像の分析	44	15	画像分析実習2	45	16	Textact : 画像からテキストを抽出	46	17	Textact : 画像からテキストを抽出	47	18	テキスト抽出実習	48	19	Comprehend : 文章から話題や感情を抽出	49	20	Comprehend : 文章から話題や感情を抽出	50	21	Comprehend : 文章から話題や感情を抽出	51	22	話題、感情抽出実習1	52	23	話題、感情抽出実習2	53	24	開発演習	54	25	開発演習	55	26	開発演習	56	27	開発演習	57	28	開発演習	58	29	開発演習	59	30	効果測定	60
1	環境構築	31																																																																																									
2	Translate : テキスト翻訳	32																																																																																									
3	Translate : テキスト翻訳	33																																																																																									
4	Polly : 音声合成	34																																																																																									
5	Polly : 音声合成	35																																																																																									
6	翻訳、音声合成実習	36																																																																																									
7	Transcribe : 音声をテキストに変換	37																																																																																									
8	Transcribe : 音声をテキストに変換	38																																																																																									
9	音声変換実習	39																																																																																									
10	Rekognition : 画像の分析	40																																																																																									
11	Rekognition : 画像の分析	41																																																																																									
12	画像分析実習1	42																																																																																									
13	Rekognition : 画像の分析	43																																																																																									
14	Rekognition : 画像の分析	44																																																																																									
15	画像分析実習2	45																																																																																									
16	Textact : 画像からテキストを抽出	46																																																																																									
17	Textact : 画像からテキストを抽出	47																																																																																									
18	テキスト抽出実習	48																																																																																									
19	Comprehend : 文章から話題や感情を抽出	49																																																																																									
20	Comprehend : 文章から話題や感情を抽出	50																																																																																									
21	Comprehend : 文章から話題や感情を抽出	51																																																																																									
22	話題、感情抽出実習1	52																																																																																									
23	話題、感情抽出実習2	53																																																																																									
24	開発演習	54																																																																																									
25	開発演習	55																																																																																									
26	開発演習	56																																																																																									
27	開発演習	57																																																																																									
28	開発演習	58																																																																																									
29	開発演習	59																																																																																									
30	効果測定	60																																																																																									
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 効果測定(実習課題)の得点で評価																																																																																										
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。																																																																																										

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	ITキャリアデザインIII	
実務家教員授業		
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース	
履修年次	2年次	
開講学期	前期	
科目区分	必修	
授業方法	演習	
授業時間	120時間（4単位）	
授業コマ数	60コマ（1コマ90分）	
授業概要	就職活動に関する適性試験や面接試験対策について深く学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と演習	
達成目標	希望している企業からの早期内々定獲得を目指す	
教科書	オリジナルテキスト	
実務家教員の紹介		
授業計画	1 企業研究	31 IT業界時事テーマの決定 1
	2 企業別志望動機作成	32 情報収集
	3 面接試験における質問研究	33 情報収集
	4 面接トレーニング	34 ディスカッション
	5 SPI対策	35 ディスカッション
	6 CAB対策	36 まとめレポート作成
	7 企業研究	37 SPI対策
	8 企業別志望動機作成	38 SPI対策
	9 面接試験における質問研究	39 CAB対策
	10 面接トレーニング	40 CAB対策
	11 SPI対策	41 IT業界時事テーマの決定 2
	12 CAB対策	42 情報収集
	13 企業研究	43 情報収集
	14 企業別志望動機作成	44 ディスカッション
	15 面接試験における質問研究	45 ディスカッション
	16 面接トレーニング	46 まとめレポート作成
	17 SPI対策	47 SPI対策
	18 CAB対策	48 SPI対策
	19 企業研究	49 CAB対策
	20 企業別志望動機作成	50 CAB対策
	21 面接試験における質問研究	51 IT業界時事テーマの決定 3
	22 面接トレーニング	52 情報収集
	23 SPI対策	53 情報収集
	24 CAB対策	54 ディスカッション
	25 企業研究	55 ディスカッション
	26 企業別志望動機作成	56 まとめレポート作成
	27 面接試験における質問研究	57 SPI対策
	28 SPI対策	58 SPI対策
	29 CAB対策	59 CAB対策
	30 SPI対策	60 効果測定
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 効果測定(模擬面接)の得点で評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	ITキャリアデザインIV	
実務家教員授業		
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース	
履修年次	2年次	
開講学期	後期	
科目区分	必修	
授業方法	演習	
授業時間	30時間（1単位）	
授業コマ数	15コマ（1コマ90分）	
授業概要	社会人に必要なビジネスマナーについて学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と演習	
達成目標	ビジネスマナーについて理解し状況別の電話応対ができる	
教科書	オリジナルテキスト	
実務家教員の紹介		
授業計画	1 学校と職場の違い	31
	2 職場のマナー	32
	3 仕事の進め方	33
	4 「ほう・れん・そう」とは	34
	5 挨拶の種類	35
	6 笑顔・お辞儀	36
	7 正しい敬語の使い方	37
	8 応対の基本	38
	9 電話応対のマナー	39
	10 電話の受け方	40
	11 電話のかけ方	41
	12 状況別の電話応対	42
	13 状況別の電話応対	43
	14 総合演習	44
	15 効果測定	45
	16	46
	17	47
	18	48
	19	49
	20	50
	21	51
	22	52
	23	53
	24	54
	25	55
	26	56
	27	57
	28	58
	29	59
	30	60
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 効果測定(電話応対)の得点で評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容																																																																																										
授業科目	IoT実習																																																																																										
実務家教員授業	○																																																																																										
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース																																																																																										
履修年次	2年次																																																																																										
開講学期	前期																																																																																										
科目区分	選択1																																																																																										
授業方法	実習																																																																																										
授業時間	60時間（2単位）																																																																																										
授業コマ数	30コマ（1コマ90分）																																																																																										
授業概要	Raspberry Piを利用したIoTシステムの作成方法について学ぶ																																																																																										
授業の進め方	有識者の指導による講義と実習																																																																																										
達成目標	IoTデバイスの作り方、操作方法、プログラミング、クラウド連携までを体系的に習得する																																																																																										
教科書	Pythonで動かして学ぶ！あたらしいIoTの教科書																																																																																										
実務家教員の紹介	アプリケーション開発者として各種プログラミング言語での開発経験が豊富である。エンジニアとしての経験を活かした実習指導をおこなう。																																																																																										
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>IoTの概要</td><td>31</td></tr> <tr><td>2</td><td>IoTの仕組み</td><td>32</td></tr> <tr><td>3</td><td>RaspberryPiのセットアップ</td><td>33</td></tr> <tr><td>4</td><td>RaspberryPiのセットアップ</td><td>34</td></tr> <tr><td>5</td><td>RaspberryPiを使ってLEDを点灯させる</td><td>35</td></tr> <tr><td>6</td><td>RaspberryPiを使ってLEDを点灯させる</td><td>36</td></tr> <tr><td>7</td><td>RaspberryPiを使用した様々なLED制御</td><td>37</td></tr> <tr><td>8</td><td>RaspberryPiを使用した様々なLED制御</td><td>38</td></tr> <tr><td>9</td><td>センサーによるデータ取得</td><td>39</td></tr> <tr><td>10</td><td>センサーによるデータ取得</td><td>40</td></tr> <tr><td>11</td><td>RaspberryPiを使用した様々なセンサデータ取得</td><td>41</td></tr> <tr><td>12</td><td>RaspberryPiを使用した様々なセンサデータ取得</td><td>42</td></tr> <tr><td>13</td><td>クラウドストレージにデータを保存</td><td>43</td></tr> <tr><td>14</td><td>クラウドストレージにデータを保存</td><td>44</td></tr> <tr><td>15</td><td>様々なクラウドストレージ活用方法</td><td>45</td></tr> <tr><td>16</td><td>様々なクラウドストレージ活用方法</td><td>46</td></tr> <tr><td>17</td><td>IoTとデータの可視化</td><td>47</td></tr> <tr><td>18</td><td>IoTとデータの可視化</td><td>48</td></tr> <tr><td>19</td><td>様々なデータの可視化と活用方法</td><td>49</td></tr> <tr><td>20</td><td>様々なデータの可視化と活用方法</td><td>50</td></tr> <tr><td>21</td><td>IoTとアクチュエーターの遠隔操作</td><td>51</td></tr> <tr><td>22</td><td>IoTとアクチュエーターの遠隔操作</td><td>52</td></tr> <tr><td>23</td><td>アクチュエーターの活用方法</td><td>53</td></tr> <tr><td>24</td><td>アクチュエーターの活用方法</td><td>54</td></tr> <tr><td>25</td><td>IoTとAI</td><td>55</td></tr> <tr><td>26</td><td>IoTとAI</td><td>56</td></tr> <tr><td>27</td><td>IoTとAI</td><td>57</td></tr> <tr><td>28</td><td>IoTシステムにおけるAIの活用方法</td><td>58</td></tr> <tr><td>29</td><td>IoTシステムにおけるAIの活用方法</td><td>59</td></tr> <tr><td>30</td><td>効果測定</td><td>60</td></tr> </table>	1	IoTの概要	31	2	IoTの仕組み	32	3	RaspberryPiのセットアップ	33	4	RaspberryPiのセットアップ	34	5	RaspberryPiを使ってLEDを点灯させる	35	6	RaspberryPiを使ってLEDを点灯させる	36	7	RaspberryPiを使用した様々なLED制御	37	8	RaspberryPiを使用した様々なLED制御	38	9	センサーによるデータ取得	39	10	センサーによるデータ取得	40	11	RaspberryPiを使用した様々なセンサデータ取得	41	12	RaspberryPiを使用した様々なセンサデータ取得	42	13	クラウドストレージにデータを保存	43	14	クラウドストレージにデータを保存	44	15	様々なクラウドストレージ活用方法	45	16	様々なクラウドストレージ活用方法	46	17	IoTとデータの可視化	47	18	IoTとデータの可視化	48	19	様々なデータの可視化と活用方法	49	20	様々なデータの可視化と活用方法	50	21	IoTとアクチュエーターの遠隔操作	51	22	IoTとアクチュエーターの遠隔操作	52	23	アクチュエーターの活用方法	53	24	アクチュエーターの活用方法	54	25	IoTとAI	55	26	IoTとAI	56	27	IoTとAI	57	28	IoTシステムにおけるAIの活用方法	58	29	IoTシステムにおけるAIの活用方法	59	30	効果測定	60
1	IoTの概要	31																																																																																									
2	IoTの仕組み	32																																																																																									
3	RaspberryPiのセットアップ	33																																																																																									
4	RaspberryPiのセットアップ	34																																																																																									
5	RaspberryPiを使ってLEDを点灯させる	35																																																																																									
6	RaspberryPiを使ってLEDを点灯させる	36																																																																																									
7	RaspberryPiを使用した様々なLED制御	37																																																																																									
8	RaspberryPiを使用した様々なLED制御	38																																																																																									
9	センサーによるデータ取得	39																																																																																									
10	センサーによるデータ取得	40																																																																																									
11	RaspberryPiを使用した様々なセンサデータ取得	41																																																																																									
12	RaspberryPiを使用した様々なセンサデータ取得	42																																																																																									
13	クラウドストレージにデータを保存	43																																																																																									
14	クラウドストレージにデータを保存	44																																																																																									
15	様々なクラウドストレージ活用方法	45																																																																																									
16	様々なクラウドストレージ活用方法	46																																																																																									
17	IoTとデータの可視化	47																																																																																									
18	IoTとデータの可視化	48																																																																																									
19	様々なデータの可視化と活用方法	49																																																																																									
20	様々なデータの可視化と活用方法	50																																																																																									
21	IoTとアクチュエーターの遠隔操作	51																																																																																									
22	IoTとアクチュエーターの遠隔操作	52																																																																																									
23	アクチュエーターの活用方法	53																																																																																									
24	アクチュエーターの活用方法	54																																																																																									
25	IoTとAI	55																																																																																									
26	IoTとAI	56																																																																																									
27	IoTとAI	57																																																																																									
28	IoTシステムにおけるAIの活用方法	58																																																																																									
29	IoTシステムにおけるAIの活用方法	59																																																																																									
30	効果測定	60																																																																																									
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 効果測定(実習課題)の得点で評価																																																																																										
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。																																																																																										

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	フロントエンドフレームワーク	
実務家教員授業	○	
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース	
履修年次	2年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択1	
授業方法	実習	
授業時間	90時間（3単位）	
授業コマ数	45コマ（1コマ90分）	
授業概要	Vue.jsの基本文法とシングルページアプリケーションの作成について学ぶ	
授業の進め方	有識者の指導による講義と実習	
達成目標	Vue.jsを使用してシングルページアプリケーションの作成ができる	
教科書	動かして学ぶ！Vue.js開発入門	
実務家教員の紹介	システムエンジニアとしての設計・開発・プログラミングの経験を活かし、本科目に対し実践的な指導・教育をおこなう。	
授業計画	1 Vue.jsの概要	31 アニメーションの表示
	2 Vue.jsのインストール	32 アニメーションの表示
	3 データの表示	33 実習
	4 属性の指定	34 Vue.jsでのToDoリスト
	5 実習	35 Vue.jsでのToDoリスト
	6 ユーザの入力	36 実習
	7 ユーザの入力	37 部品にまとめる：コンポーネント
	8 ユーザの入力	38 部品にまとめる：コンポーネント
	9 ユーザの入力	39 部品にまとめる：コンポーネント
	10 実習	40 部品にまとめる：コンポーネント
	11 ユーザの操作	41 実習
	12 ユーザの操作	42 JSONデータの表示
	13 ユーザの操作	43 JSONデータの表示
	14 実習	44 JSONデータの表示
	15 効果測定	45 効果測定
	16 条件と繰り返し	46
	17 条件と繰り返し	47
	18 条件と繰り返し	48
	19 条件と繰り返し	49
	20 実習	50
	21 Google Chartsとの連動	51
	22 データの変化の監視	52
	23 データの変化の監視	53
	24 実習	54
	25 データの変化の監視	55
	26 データの変化の監視	56
	27 実習	57
	28 Markdownエディタ	58
	29 総合実習	59
	30 効果測定	60
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 効果測定(実習課題)の得点で評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	クラウドコンピューティングB	
実務家教員授業	○	
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース	
履修年次	2年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択1	
授業方法	実習	
授業時間	90時間（3単位）	
授業コマ数	45コマ（1コマ90分）	
授業概要	JavaサーブレットとJSPを使用するサーバサイドプログラミングについて学ぶ	
授業の進め方	有識者の指導による講義と実習	
達成目標	ショッピングサイトのWebアプリケーションを開発、クラウドにデプロイをする	
教科書	基礎からのサーブレット／JSP 新版	
実務家教員の紹介	システムエンジニアとしての設計・開発・プログラミングの経験を活かし、本科目に対し実践的な指導・教育をおこなう。	
授業計画	1 サーブレット/JSPとは	31 Webアプリケーションの公開
	2 開発環境の準備	32 WARファイルとは
	3 サーブレットのコンパイルと実行	33 デプロイ
	4 サーブレットの基本	34 開発演習
	5 サーブレットによるリクエストの処理	35 開発演習
	6 いろいろなリクエストパラメータ	36 開発演習
	7 JSPの基本	37 開発演習
	8 JSPによるリクエストの処理とエラーページ	38 開発演習
	9 いろいろな画面遷移	39 開発演習
	10 フィルタの作成	40 開発演習
	11 サーブレットの詳細	41 開発演習
	12 HTTPのリクエストとレスポンス	42 開発演習
	13 データベース	43 開発演習
	14 Javaとデータベースの連携	44 開発演習
	15 JavaBeansとDAO	45 効果測定
	16 スコープとリクエスト属性	46
	17 セッション	47
	18 クッキー	48
	19 外部データの読み込み	49
	20 アクションタグ	50
	21 EL	51
	22 JSTL	52
	23 MVCパターンとは	53
	24 FrontControllerパターン	54
	25 検索アクションと追加アクションの作成	55
	26 ログイン機能の仕組みと作成	56
	27 ログアウト処理	57
	28 ショッピングサイトの構築	58
	29 ショッピングサイトの構築	59
	30 ショッピングサイトの構築	60
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 効果測定(実習課題)の得点で評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	クラウド技術II	
実務家教員授業	○	
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース	
履修年次	2年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択1	
授業方法	実習	
授業時間	90時間（3単位）	
授業コマ数	45コマ（1コマ90分）	
授業概要	コンテナ技術、Dockerについて学ぶ	
授業の進め方	有識者の指導による講義と実習	
達成目標	コンテナの概要を理解し、自らコンテナを作成できるようになる	
教科書	docker 基礎からのコンテナ構築	
実務家教員の紹介	システムエンジニアとしての設計・開発・プログラミングの経験を活かし、本科目に対し実践的な指導・教育をおこなう。	
授業計画	1 コンテナの仕組みと利点	31 Docker Compose
	2 隔離された実行環境を提供する	32 Docker Composeを使った例
	3 Dockerを構成する要素	33 カスタムなイメージを作る
	4 Dockerの利点と活用例	34 カスタムなイメージの作り方と仕組み
	5 Dockerの本格運用	35 コンテナからイメージを作る
	6 Dockerを利用できるサーバーを作る	36 Dockerfileからイメージを作る
	7 Dockerを使うための構成	37 イメージの保存と読み込み
	8 AWS上でEC2を使ったDocker環境を用意する	38 Docker Hubに登録する
	9 EC2インスタンスを起動する	39 プライベートなレジストリを使う
	10 EC2インスタンスにSSH接続する	40 開発演習
	11 DockerEngineをインストールする	41 開発演習
	12 DockerでWebサーバーを作る	42 開発演習
	13 Dockerイメージを探す	43 開発演習
	14 Dockerコンテナを起動する	44 開発演習
	15 コンテナの停止と再開	45 効果測定
	16 ログの確認	46
	17 コンテナの破棄・イメージの破棄	47
	18 Dockerの基本コマンド	48
	19 コンテナ起動から終了までの流れ	49
	20 デタッチとアタッチ	50
	21 コンテナをメンテナンスする	51
	22 1回限り動かすコンテナの使い方	52
	23 コンテナとファイルの独立性	53
	24 データを独立させる	54
	25 バインドマウントとボリュームマウント	55
	26 データのバックアップ	56
	27 bridgeネットワーク	57
	28 ネットワークを新規に作成して通信を分ける	58
	29 hostネットワークとnoneネットワーク	59
	30 2つのコンテナが通信するWordPressの例	60
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 効果測定(実習課題)の得点で評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	オブジェクト指向分析設計	
実務家教員授業	○	
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース	
履修年次	2年次	
開講学期	後期	
科目区分	必修	
授業方法	実習	
授業時間	120時間（4単位）	
授業コマ数	60コマ（1コマ90分）	
授業概要	ユースケース駆動設計によるオブジェクト指向分析設計、アジャイル開発について学ぶ	
授業の進め方	有識者の指導による講義と実習	
達成目標	分析から設計・実装までのソフトウェアライフサイクルに対応できる	
教科書	システムの分析と設計 図解とUMLによるアプローチ／アジャイル開発への道案内	
実務家教員の紹介	システムエンジニアとしての設計・開発・プログラミングの経験を活かし、本科目に対し実践的な指導・教育をおこなう。	
授業計画	1 アジャイル開発の現状と課題	31 システム分析の事例実習
	2 アジャイル開発の概要	32 システム分析の事例実習
	3 アジャイル開発の特徴	33 システム分析の事例実習
	4 アジャイル開発のプロセス	34 UMLを用いたシステム設計の基礎
	5 アジャイル開発の効果とリスク	35 システム設計の事例実習
	6 上流工程を組み込んだ拡張アジャイル開発	36 システム設計の事例実習
	7 アジャイル開発の事例	37 システム設計の事例実習
	8 実習	38 総合実習
	9 事例を用いたアジャイルユースケース駆動設計	39 総合実習
	10 事例を用いたアジャイルユースケース駆動設計	40 総合実習
	11 事例を用いたアジャイルユースケース駆動設計	41 総合実習
	12 事例を用いたアジャイルユースケース駆動設計	42 総合実習
	13 事例を用いたアジャイルユースケース駆動設計	43 総合実習
	14 事例を用いたアジャイルユースケース駆動設計	44 総合実習
	15 効果測定	45 総合実習
	16 各種ツールの準備と実習	46 総合実習
	17 システム分析の本質	47 総合実習
	18 図解技法の応用	48 総合実習
	19 実習	49 総合実習
	20 実習	50 総合実習
	21 システム分析・設計の手順	51 総合実習
	22 UMLの基本	52 総合実習
	23 UMLの基本	53 総合実習
	24 システム分析の事例実習	54 総合実習
	25 システム分析の事例実習	55 総合実習
	26 システム分析の事例実習	56 総合実習
	27 システム分析の事例実習	57 総合実習
	28 システム分析の事例実習	58 総合実習
	29 システム分析の事例実習	59 総合実習
	30 効果測定	60 効果測定
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 効果測定(実習課題)の得点で評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	卒業制作 I	
実務家教員授業	○	
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース	
履修年次	2年次	
開講学期	後期	
科目区分	必修	
授業方法	実習	
授業時間	90時間（3単位）	
授業コマ数	45コマ（1コマ90分）	
授業概要	システム開発における企画立案、ユースケース図及びロバストネス図の作成について学ぶ	
授業の進め方	有識者の指導による実習	
達成目標	企画立案をおこない、ユースケース図とロバストネス図を完成させる	
教科書	なし	
実務家教員の紹介	SIer企業にてプログラマー、システムエンジニアとしての実務経験から、開発業務で活かせる実践的な教育をおこなう。	
授業計画	1 卒業研究とは	31 ユースケースモデルレビュー
	2 企画立案の留意点	32 ユースケースモデルレビュー
	3 業界研究	33 ユースケースモデルレビュー
	4 業界研究	34 ロバストネス分析の理論
	5 業界研究	35 ロバストネス分析の実践
	6 業界研究	36 ロバストネス分析
	7 企画立案	37 ロバストネス分析
	8 企画立案	38 ロバストネス分析
	9 企画立案	39 ロバストネス分析
	10 企画立案	40 ロバストネス分析
	11 企画立案	41 ロバストネス分析
	12 企画立案	42 ロバストネス図レビュー
	13 企画立案	43 ロバストネス図レビュー
	14 企画立案	44 ロバストネス図レビュー
	15 企画立案	45 効果測定
	16 企画立案	46
	17 企画書レビュー	47
	18 企画書レビュー	48
	19 企画書レビュー	49
	20 ドメインモデリングの理論	50
	21 ドメインモデリングの実践	51
	22 ドメインモデリング分析	52
	23 ユースケースモデリングの理論	53
	24 ユースケースモデリングの実践	54
	25 ユースケースモデリング分析	55
	26 ユースケースモデリング分析	56
	27 ユースケースモデリング分析	57
	28 ユースケースモデリング分析	58
	29 ユースケースモデリング分析	59
	30 ユースケースモデリング分析	60
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 効果測定(実習課題)の得点で評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	卒業制作 II	
実務家教員授業	○	
学部・学科	経理本科 2年制学科 システム開発コース	
履修年次	2年次	
開講学期	後期	
科目区分	必修	
授業方法	実習	
授業時間	90時間（3単位）	
授業コマ数	45コマ（1コマ90分）	
授業概要	システム開発におけるシーケンス図とクラス図及びテーブル設計書や画面レイアウトについて学ぶ	
授業の進め方	有識者の指導による実習	
達成目標	シーケンス図とクラス図を作成し、テーブル設計書や画面レイアウトを完成させる	
教科書	なし	
実務家教員の紹介	SIer企業にてプログラマー、システムエンジニアとしての実務経験から、開発業務で活かせる実践的な教育をおこなう。	
授業計画	1 シーケンス図作成の理論	31 データベース設計の理論
	2 シーケンス図作成の実践	32 データベース設計の実践
	3 シーケンス図作成	33 テーブル設計書の作成
	4 シーケンス図作成	34 テーブル設計書の作成
	5 シーケンス図作成	35 テーブル設計書の作成
	6 シーケンス図作成	36 テーブル設計書の作成
	7 シーケンス図作成	37 画面レイアウト設計の理論
	8 シーケンス図作成	38 画面レイアウト設計の実践
	9 シーケンス図作成	39 画面レイアウトの作成
	10 シーケンス図作成	40 画面レイアウトの作成
	11 シーケンス図作成	41 画面レイアウトの作成
	12 シーケンス図作成	42 画面レイアウトの作成
	13 シーケンス図レビュー	43 画面レイアウトの作成
	14 シーケンス図レビュー	44 画面レイアウトの作成
	15 シーケンス図レビュー	45 効果測定
	16 クラス図作成の理論	46
	17 クラス図作成の実践	47
	18 クラス図作成	48
	19 クラス図作成	49
	20 クラス図作成	50
	21 クラス図作成	51
	22 クラス図作成	52
	23 クラス図作成	53
	24 クラス図作成	54
	25 クラス図作成	55
	26 クラス図作成	56
	27 クラス図作成	57
	28 クラス図レビュー	58
	29 クラス図レビュー	59
	30 クラス図レビュー	60
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 効果測定(実習課題)の得点で評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	卒業制作III	
実務家教員授業	○	
学部・学科	経理本科 2年制学科	システム開発コース
履修年次	2年次	
開講学期	後期	
科目区分	必修	
授業方法	実習	
授業時間	150時間（5単位）	
授業コマ数	75コマ（1コマ90分）	
授業概要	システム開発におけるテスト仕様書の作成及び実装について学ぶ	
授業の進め方	有識者の指導による実習	
達成目標	テスト仕様書の完成及びシステムのメイン機能の完成をめざす	
教科書	なし	
実務家教員の紹介	SIer企業にてプログラマー、システムエンジニアとしての実務経験から、開発業務で活かせる実践的な教育をおこなう。	
授業計画	1 テストの理論	41 テストの実施
	2 テスト仕様書の作成	42 テストの実施
	3 テスト仕様書の作成	43 テストの実施
	4 テスト仕様書の作成	44 テストの実施
	5 テスト仕様書の作成	45 テストの実施
	6 テスト仕様書の作成	46 プログラミング（改修）
	7 プログラミング（開発）	47 プログラミング（改修）
	8 プログラミング（開発）	48 プログラミング（改修）
	9 プログラミング（開発）	49 プログラミング（改修）
	10 プログラミング（開発）	50 プログラミング（改修）
	11 プログラミング（開発）	51 プログラミング（改修）
	12 プログラミング（開発）	52 プログラミング（改修）
	13 プログラミング（開発）	53 プログラミング（改修）
	14 プログラミング（開発）	54 プログラミング（改修）
	15 プログラミング（開発）	55 プログラミング（改修）
	16 プログラミング（開発）	56 プログラミング（改修）
	17 プログラミング（開発）	57 プログラミング（改修）
	18 プログラミング（開発）	58 プログラミング（改修）
	19 プログラミング（開発）	59 プログラミング（改修）
	20 プログラミング（開発）	60 プログラミング（改修）
	21 プログラミング（開発）	61 テストの実施
	22 プログラミング（開発）	62 テストの実施
	23 プログラミング（開発）	63 テストの実施
	24 プログラミング（開発）	64 テストの実施
	25 プログラミング（開発）	65 テストの実施
	26 プログラミング（開発）	66 テストの実施
	27 プログラミング（開発）	67 テストの実施
	28 プログラミング（開発）	68 テストの実施
	29 プログラミング（開発）	69 テストの実施
	30 プログラミング（開発）	70 テストの実施
	31 テストの実施	71 テストの実施
	32 テストの実施	72 テストの実施
	33 テストの実施	73 テストの実施
	34 テストの実施	74 テストの実施
	35 テストの実施	75 効果測定
	36 テストの実施	
	37 テストの実施	
	38 テストの実施	
	39 テストの実施	
	40 テストの実施	
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 効果測定(実習課題)の得点で評価	
備考	成績評価基準 学修成果に基づき、成績を90点以上「秀」、80点以上90点未満「優」、70点以上80点未満「良」、60点以上70点未満「可」、60点未満は「不可」の5段階評価とする。	